

アプリ部門

応募締切

7/10

消印有効

身近なヒント 発明展

こども部門

新部門を追加します!

現在募集中の10個の部門に、2部門を追加します。本年度大会(令和3年7月10日応募締切分)から応募でき、今後も継続します。

11部門 アプリ部門

「アプリ」は、スマートフォンなどで、やりたいことをやれるようにしてくれるソフトのこと。スマホの普及で、新しいサービスを提供する新アプリのアイデアを考える人が増えており、これらの発明家の商品化支援をするために新設された部門です。

《11部門「アプリ部門」応募要項》

応募資格、応募費用等は従来と同様。

応募方法: 「身近なヒント発明展」応募用紙の応募部門欄に「11部門」と記入。

応募用紙記入方法と試作について:

実際にプログラミングをして、アプリそのものを作る必要はありません。アプリの完成度を競うコンテストではなく、新しい視点から生まれたアプリのアイデアのヒントを、新アプリ開発に活かすことを目的としています。

「こんなアプリがあったら、こんな人が喜ぶ」というアイデアの内容と、具体的な機能例や活用法を、文章やイラストで説明するだけで応募可能です(アプリを作っても応募可能)。

《応募例》 「ラーメン屋アプリ」

ラーメンが食べたくなったとき、今いる場所の近くの店舗を探してくれるアプリ。現地情報と飲食店データベースをリンクさせ、地図上でラーメン店を検索。メニューやレビュー閲覧のほか、店の予約や行列の状況、出前注文も可能な、ラーメン愛好家が喜ぶアプリ。

審査・賞・採用:

従来どおり、全協賛企業が審査し、賞を決定し表彰します。諸権利は応募者に帰属し、アプリ採用の際は実施料契約をし、協賛企業の規定に沿って、発明者にアプリのダウンロード数などに応じた、ロイヤリティが支払われます。

12部門 こども発明部門

「ものづくり」と「発明」に興味を持ってもらい、発想力の向上や、未来の日本を支える子どもたちの創造と表現力の育成を目指す目的で新設された部門です!

《12部門「こども発明部門」応募要項》

応募資格: 小中学生(15歳まで)

応募ジャンル: 全11ジャンル(新設アプリ部門まで含む)

応募方法: 「身近なヒント発明展」応募用紙の応募部門欄に「12部門」と記入。

応募費用: 学生1,000円

応募用紙記入方法と試作について:

試作品がある場合はその写真を貼り、説明してください。ない場合はイラスト等で説明をし、応募してください。

審査・賞・採用:

アイデアや試作のレベルは問いませんが、一般部門同様に、全協賛企業が、商品化検討を前提に審査をします。諸権利は応募者に帰属し、商品化の際は実施料契約をし、発明者にロイヤリティが支払われます。

その他、特に優秀な作品約10点を、「こども発明部門 特別賞」として表彰し、「発明学会認定 未来の発明家」の称号を授与します。

《サポーター弁理士》

ばば ひでひこ 先生(発明学会会員)

新幹線用 紙製 組立式ハンガー

「マヒルハンガー」を発明した、

まひるちゃん(当時小3)のおとうさん。

まひるちゃんは、発明学会の「第24回 身近なヒント発明展」に応募したら、複

数の企業が商品化採用の申し込みがあり、見事最高賞の「発明学会 大賞」を受賞! 現在は、家族で「マヒルハンガー」専門のネットショップ「ばばよし」を運営中。



協賛企業があなたのアイデアを求めています!

「身近なヒント発明展」は、ただ賞を決めるコンクールではなく、企業が審査に参加する「商品化にもっとも近いコンクール」として知られ、毎年、応募作品から採用が決まり商品化されています。

アイデア採用をめざして、今回から増えた新部門へも、どしどしご応募おまちしております!